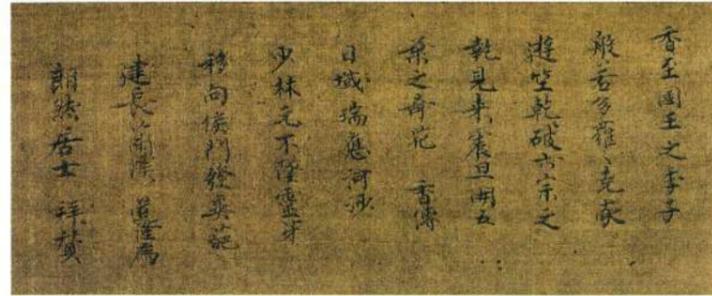


国宝『達磨図』

文化財保護法制定五十周年記念特別企画

臨済宗大本山
向嶽寺蔵複製

国宝『達磨図』



蘭溪道隆の賛銘(本紙内)

〈意識〉

達磨大師は南インドの香至国の第三子で、仏法の第二十七祖である般若多羅の弟子となり、師の法をよく受け伝えた。般若多羅の弟子(仏大勝多)の門下が六つの邪宗に分かれていたのを喝破し、すべて自らに帰依せしめた。さらに中国に渡って、禅宗が臨済、曹洞などの五家に分立して発展する基礎を築いた。達磨大師の教化は日本に伝わり、その効力は、ガンジス河の砂が無数であるように、あらゆる面に及んだ。中国・嵩山の少林寺にあったとき、大師は禅宗第二祖となる慧可を得たが、さらに教えは日本に伝わって貴家の帰依を厚くし、花開いた。建長寺の蘭溪道隆が、朗然居士のために観瀾閣にてこの賛を著す。

* 朗然居士: 諸説があり、執権の北条時頼もしくは北条時宗を指す。

向嶽寺(山梨県塩山市)

臨済宗向嶽寺派大本山。抜隊得勝(1327~87年)が、守護の武田信成より寄進された地に、向嶽庵を開く。庵名は、抜隊が近江で富士山に向かい法を説く夢をみたことに由来する。1547年、武田信玄の奏請により、向嶽寺と改称。『国宝 達磨図』をはじめ、重要文化財、国指定名勝の庭園など、多くの寺宝がある。

蘭溪道隆(1213~78年)

鎌倉時代に宋から来日した臨済宗の僧。京都・泉湧寺に入り、やがて鎌倉の寿福寺、常楽寺に入る。執権の北条時頼の帰依厚く、建長寺の開山第一祖となり、宋風の厳しい修禅生活を実践。のちに京都の建仁寺に住し、京都にも純粋禅を広める。流言がもとで甲府に流されるが、1278年に建長寺に帰住し、北条時頼とともに円覚寺建立に尽くす。入寂の翌年、日本で最初の禅師号、大覚禅師を諡される。

特色

- ◎ 面壁九年の坐禅を重ねた姿をあらわす最も秀逸にして原型的な『国宝 達磨図』を完全複製。
- ◎ 宋より日本へ渡来した名僧、蘭溪道隆の賛銘。
- ◎ 伝統京表具による高級感あふれるお仕立。

〈仕様・体裁〉

軸寸法: 天地1,935 mm×左右786 mm
本紙寸法: 天地1,095 mm×左右616 mm
用紙: 特製手漉鳥の子紙
印刷: 高級美術工芸多色刷
箱: 本格豪華高級桐箱入
箱書: 臨済宗大本山 向嶽寺管長 宮本大峰

〈表具仕様〉

総縁: 媚茶地鳳凰に牡丹裂
中廻し: 黄枯茶地大燈雲紋金襴
軸先: 黒塗り
太巻芯付

注文制作

本品はお申し込みいただきましてからの制作となりますので、お届けまでに多少のお時間をいただきます。



箱書



限定印製証明

このカタログ上の仕様・体裁および色合いは、実物と多少異なる場合があります。ご了承ください。

企画・制作

株式会社 メディア設計

本社: 〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町230

お申し込みは……

刊行によせて

二〇〇一年七月吉日
株式会社 メディア設計

『国宝 達磨図』は、一九八一年、ご所蔵の向嶽寺さまのご認可により、株式会社同朋舎出版にて限定複製(軸装)が発行されました。面壁九年の坐禅にうちこまれる達磨大師の御姿、御志を世に広く伝えることとする向嶽寺さまのご英断により、この貴重な法宝物をお届けすることが可能になりました。

この同朋舎出版限定複製の残部が三〇〇、大切に保管されておりました。新世紀を迎え、このたび株式会社メディア設計が、向嶽寺さまのご了承のもと継承し、つきましては、限定印製証明付きで、改めて頒布させていただきました。

『国宝 達磨図』は、現在、向嶽寺さまでは一般に公開されることなく、寺門の方々に篤く尊崇されています。向嶽寺さまは、当初このまま残部を世に出さないことをお考えでしたが、三〇〇部の達磨大師御姿の写しが法宝物として世に出ることなく小社のもとで眠ることともいかなるものかとご配慮され、今回限りの頒布再開の承認に踏み切られました。ここに厚く感謝し、御礼申し上げる次第でございます。

表装にあたりましては、最高級の料紙と伝統京表具、また二流の表具師によって、豪華に、かつ、一点二点を大切に制作いたしました。

『国宝 達磨図』は、法宝物として、二級の美術品として、さらに、不撓不屈の精神で隆盛、発展を遂げていく吉祥のしるしとして、希少かつ誠に得がたき逸品です。



臨濟宗大本山
向嶽寺

『国宝 達磨図』

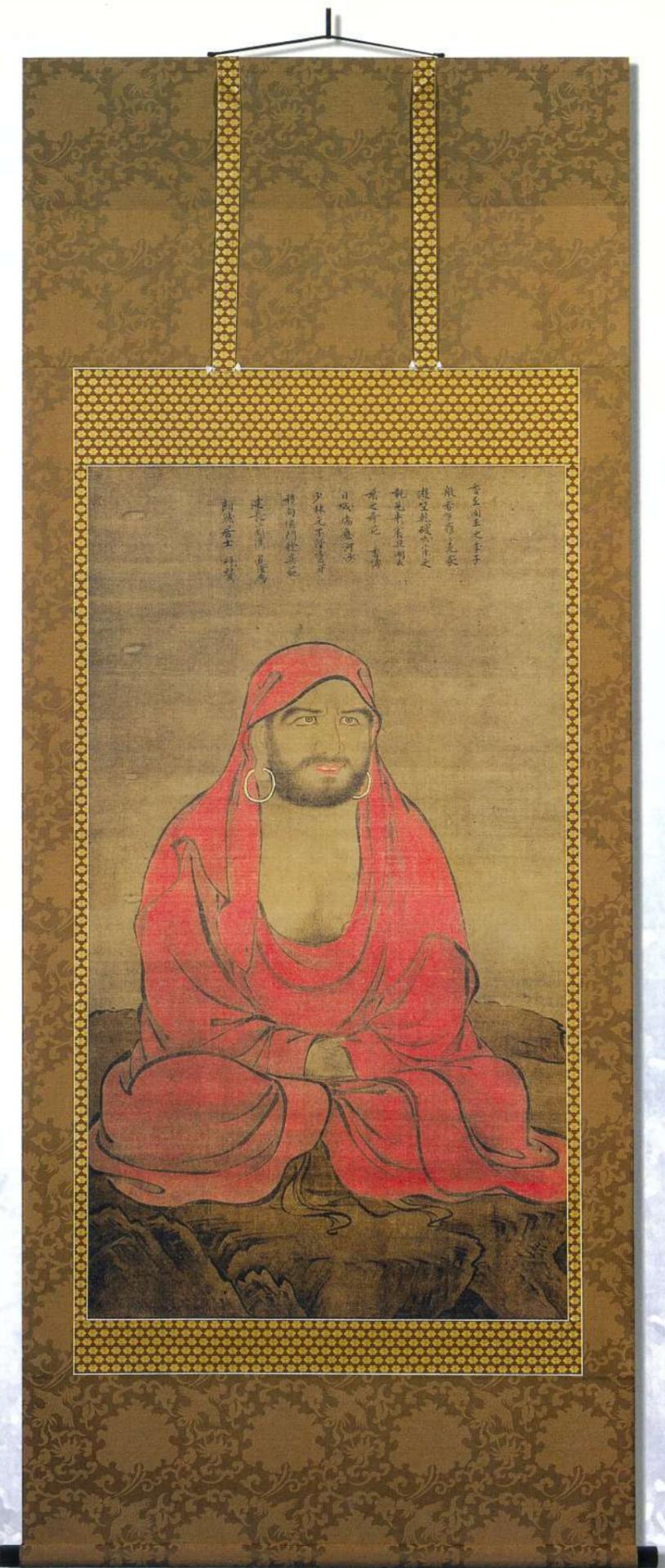
元奈良国立博物館長
元東京国立文化財研究所長
濱田 隆

仏教的主題の中でも達磨ほど俗間に流布したものは少ないのではないのでしょうか。手足を逸した現代の達磨にいたるまで、七転八起という不撓不屈の精神が、師の修行の二面を正しく伝えていくことに驚かされます。その人となりは謎に満ちていますが、南インド国王の王子の出身と言われ、北魏の時代(五世紀初頃)華北に渡り、嵩山少林寺において面壁九年(壁観)の修行を続け、中国禅宗の祖と仰がれるにいたしました。

わが国にもすでに奈良時代には禅宗の教えが伝えられましたが、純粋の導入は鎌倉時代以降で、これと併行して中国から達磨像、二祖対面図、禅宗六祖図などがもたらされ、急速に普及することになりました。

向嶽寺の「達磨図」は、中世以降に受容された水墨画の技法を基調にわが国で制作された達磨図のうち、現存する最初の、かつ最も本格的な作品としてきわめて注目されるものであります。その迫真の面貌と悠揚たる風姿はよく宗祖の不拔の精神を写して余すところない出来ばえであります。加えて本図の上には、鎌倉中期に來日し、建長寺の開山に迎えられた大覚禪師(蘭溪道隆)による、簡にして要をえた賛がしたためられており、本図の価値を二層高いものとしているのであります。

禅宗絵画の開關を飾るにふさわしいこのような秀れた達磨図の名品が、精巧な複製によって座右近く賞翫しうすることは、喜びにたえないところであり、多くの識者の心の糧となることを真に願うものであります。



最高技術の粹を結集した 美術工芸多色刷、 伝統職人による高級京表具

仏陀から数えて二十八番めの仏法の祖であり、禅宗の初祖となられた達磨大師が、中国崇山の少林寺で九年間の坐禅修行をされている御姿が描かれています。眼光鋭く、しかし明るい眼差しをされた大師が、泰然かつ堂々と、大画面いっぱい描かれています。その迫力と品格の高さから、『国宝 達磨図』は日本の『達磨図』の中でも圧倒的な存在感を誇っています。真正面を向かれた御姿は珍しく、礼拝の対象として篤く尊崇されてきたことがうかがえます。また、日本の禅の発展に多大な力を及ぼした蘭溪道隆の、大変貴重な賛銘が著されています。